

科目名	ケア・コミュニケーション						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30	担当者	小川智子		
実施年度	2020	実施時期	前期	担当者実務経験	企業にて秘書及び研修講師		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	ケアのプロセスとしてのコミュニケーション力を身につけ 被援助者や職員との対人関係を構築する能力を養うために 感じる力や考える力を磨き、思いやりと愛情を持って表現出来る介護職を目指す						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				被援助者との関係を築くコミュニケーションの神髄について説明できる	
		○				好感・信頼感を高める非言語コミュニケーションについて理解し実行することが出来る	
	○					好感・信頼感を高める言語コミュニケーションについて理解し活用することが出来る	
		○				チームの一員として仕事を進めるポイントを理解し実行することが出来る	
			○			愛される介護職の立ち居振る舞いについて理解し実行することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	ケア・コミュニケーション (麻生塾ケア・コミュニケーション研究会 編著)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業概要と自己紹介演習					
	2	2-1 好感・信頼感を高めるコミュニケーション①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	2-2 好感・信頼感を高めるコミュニケーション②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	2-1.2 まとめと演習				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	2-3 敬意を伝えるコミュニケーション				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	2-3 敬語①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	2-3 敬語②まとめと演習				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	4-1 チームの一員として仕事を進める①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	4-1 チームの一員として仕事を進める②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	4-1 まとめと演習				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	4-2 建設的でさわやかに対話する①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	4-2 建設的でさわやかに対話する②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	4-2 建設的でさわやかに対話する③				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	4-2 まとめと演習				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	演習と総まとめ(冠婚葬祭マナー)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)授業の中でグループワークや発表を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	発表				◎		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護福祉各論Ⅱ(前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 2年生						
授業概要	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解して、介護福祉の専門職としての能力と態度を学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護におけるリスクマネジメントの方法や制度について説明できる	
	○		○	○		リスクの存在について検証し発表できる	
	○	○		○		チームケアの方法と連携職種について理解しチームでの介護福祉士の役割が何なのか考 えることができる	
	○	○		○		労働に関する法律について覚えることができる	
	○	○		○		これからの介護福祉士の将来性、専門性を考えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護の基本」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	介護における安全の確保					
	2	リスクマネジメントとは何か				実習でのリスクマネジメントの実際を情報収集	
	3	福祉サービスに求められる安全・安心					
	4	事故防止のための対策					
	5	事故防止のための対策					
	6	身体拘束の廃止					
	7	介護福祉職に必要な感染に関する知識					
	8	介護福祉職に必要な感染に関する知識					
	9	安全な薬物療法を支える視点・連携					
	10	多職種連携・協働の必要性					
	11	多職種連携・協働に求められる基本的な能力					
	12	多職種連携・協働に求められる基本的な能力					
	13	保健・福祉・医療職の役割と機能					
	14	保健・福祉・医療職の役割と機能					
	15	試験対策					
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30	担当者	案納賀世子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	訪問看護ステーションにて保健師として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性として、1年次前期の「コミュニケーション技術Ⅰ」での基本的なコミュニケーション技術を生かし、様々な障害を持つ人に対して、障害の特性を理解し、コミュニケーションの方法を習得する。また障害の特性に応じた様々なコミュニケーションのあり方を考察することで、コミュニケーション技術が向上できる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					障害に応じたコミュニケーション技術について学び、手話や点字の基礎知識をつけることができる	
		○				基本のコミュニケーション技術を活用し、多職種との連携・協力の重要性を説明することができる。	
		○				チームコミュニケーションのなかで、記録・報・連・相を身に付けることができる	
		○				障害に応じた利用者の様子から、チームでのコミュニケーション技術を活用することができる。	
			○			他者からの助言が無くても、利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面へ配慮することができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「コミュニケーション技術」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1年次のコミュニケーション技術の復習とオリエンテーション					
	2	家族とのコミュニケーション技術				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	家族とのコミュニケーション技術				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	集団におけるコミュニケーション技術				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	チームで行うコミュニケーション技法①:記録				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	チームで行うコミュニケーション技法②:報告・連絡・相談・会議				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	チームで行うコミュニケーション技法③:事例検討・情報共有				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	視覚障がいの基礎知識と点字のコミュニケーション技術(自己紹介)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	視覚障がいの基礎知識と点字のコミュニケーション技術(挨拶)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	視覚障がいの基礎知識と点字のコミュニケーション技術(読み書き①)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	視覚障がいの基礎知識と点字のコミュニケーション技術(読み書き②)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	聴覚障がいの基礎知識と手話でのコミュニケーション技術(自己紹介)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	聴覚障がいの基礎知識と手話でのコミュニケーション技術(挨拶)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	聴覚障がいの基礎知識と手話でのコミュニケーション技術(時間・数字の理解)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	聴覚障がいの基礎知識と手話でのコミュニケーション技術(簡単な日常会話等)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				90%
	小テスト	◎	◎				5%
	授業態度・忘れ物・居眠り等				◎		5%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活と住環境						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	田上 美里		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて介護職にて勤務		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように根拠に基づいた介護実践ができるように知識・技術を学習する。 その為に住まいの役割と機能、加齢と生活空間、快適な室内空間のあり方などを学ぶ。 福祉用具について正しい知識を学び適切に使用できるように助言できるようになる。</p>						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					住まいの役割について理解し、快適な居住環境について説明できる。	
	○					高齢者・障害者に居住環境の特性について説明できる。	
	○					災害時に対する備えの重要性について説明できる。	
	○					介護サービスの提供においてなぜ快適な居住環境が必要なのか説明できる。	
○					住環境の整備における多職種との連携の必要性を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 4 -介護の基本Ⅱ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 住まいの役割と機能			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	2	生活空間			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	3	快適な室内環境			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	4	安全に暮らすための生活環境			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	5	高齢者の住まい			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	6	障害者の住まい			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	7	居住環境の整備における多職種との連携			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	8	福祉用具の重要性			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	9	福祉用具の種類			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	10	適切な福祉用具を選ぶために視点			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の割合で評価する 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活支援技術・応用Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	田上／案納／吉水／豆田		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	CW(老健)／NS(病院)／CW(特養)／CW(病院)		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	各疾患の医学的理解・心理的理解を基とし、障害の状態に応じた介護支援の展開を行えるようになる。 また、利用者ニーズに対応した具体的な支援方法についても学ぶ。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				各疾患・障害の概要と特徴的な症状について説明できる。	
	○	○				各疾患・障害の特有の生活の困難について説明できる。	
	○	○	○			各疾患・障害に応じた生活支援技術の展開方法を選択し、生活支援技術基本の内容を応用できる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 最新介護福祉士養成講座-8 生活支援技術Ⅲ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～3	肢体不自由に応じた介護(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	4～7	内部障害(心臓機能障害のある人)に応じた介護(案納)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	8～11	内部障害(呼吸器機能障害ある人)に応じた介護(案納)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	12～14	知的障がいに応じた介護(田上)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	15～17	重症心身障害に応じた介護(田上)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	18～20	筋萎縮疾患(ALSと筋ジストロフィー)に応じた介護(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	21～22	パーキンソン病に応じた介護(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	23～24	悪性関節リウマチに応じた介護(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	25～27	災害時における生活支援(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	28～30	家庭経営、家計の管理(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	31～34	内部障害(腎臓機能障害のある人)に応じた介護(案納)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	35～36	内部障害(肝臓機能障害ある人)に応じた介護(案納)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	37	内部障害(HIV・免疫機能障害・肺がん・肺炎)に応じた介護(案納)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	38～40	発達障害に応じた介護(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
41～45	精神障害に応じた介護(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。授業内で行った演習についても定期試験にて問題として出題する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○	○			100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護過程各論Ⅱ(前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	平山恵子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	介護老人保健施設にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	1年次の介護過程総論・介護過程各論Ⅰをふまえて、利用者のより生活に沿った介護過程の展開が出来るようになる。その際に、利用者の持つ生活背景や、地域の文化的特性・自然環境・時代背景等に配慮し介護過程の展開が行えるようになることを目標とする。実際に、事例や実習での経験を通して介護計画の立案や実施・評価を行い介護過程を展開する方法を身につけていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				介護過程の展開のうちアセスメントの方法について根拠を理解し事例に応用することができる	
		○				実習担当利用者に対してアセスメントを実践し、適切に記録することができる。	
	○	○				介護過程の展開のうちアセスメントから計画の立案までの一連の方法習得し実習に応用できる	
	○	○		○		担当利用者の介護計画について実習後根拠に基づき分析を行い、論文にまとめプレゼンを行う。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規介護福祉士養成講座9 介護過程 みらい アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	情報収集の方法			実習ⅠBの担当利用者の情報		
	2	情報収集の視点					
	3	ICFの視点に基づいた情報収集について(状況シート)					
	4	介護過程の展開の方法について振り返り					
	5	アセスメントの方法について振り返り					
	6	事例検討① アセスメントの方法					
	7	個別援助計画とケアプランの違いについて(介護保険の振り返り)					
	8	介護計画の立案の方法(課題から長期目標の立案の視点)					
	9	介護計画の立案の方法(短期目標・具体的援助内容・方法)					
	10	事例検討② 個別援助計画の立案					
	11	事例検討② 個別援助計画の立案					
	12	評価、考察、再アセスメントについて振り返り					
	13	評価、考察、再アセスメントの視点・記入方法					
	14	実習に向けて介護過程の展開の進め方(スケジュール確認)					
	15	試験対策					
評価方法	前期は定期試験(筆記)を実施・後期は介護過程事例研究論文提出により評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。通年評価は、前期・後期の評価を総合的に評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(前期)	◎	◎				100%
	発表・作品(後期)	◎	◎		○		100%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護総合演習Ⅱ(前期/通期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	平山恵子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	介護老人保健施設にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	①これまで学んだ知識や技術を統合して、実際場面に適用できる応用力・判断力を身につける。 ②実習後に十分な振り返りを行い、より効果的な実習を行えるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士としての理念、職業倫理、総合的な対応能力が身についている。	
	○					介護過程の展開が実習の場面でできる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護総合演習・介護実習」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	実習施設発表、定期券申請					
	2	調べ学習、自己紹介表記入					
	3	実習内容、目標設定					
	4	実習の決まりごと確認					
	5	事前挨拶・実習前審査					
	6	事前挨拶・実習前審査					
	7	プロセスレコード記入方法					
	8	カンファレンス記入方法					
	9	帰校日(実習2週目)					
	10	帰校日(実習3週目)					
	11	帰校日(実習4週目)					
	12	実習日誌清書、お礼状、学内申し送り簿の記入					
	13	実習日誌清書、お礼状、学内申し送り簿の記入					
	14	報告会準備					
15	介護実習Ⅱ報告会						
評価方法	定期試験がないため授業、帰校日の出席、授業中の態度、意欲、努力、提出物(カンファレンスレポート、プロセスレコード、実習を終えて等)を評価対象とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	出席				○		50%
	提出物				○		50%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	医療的ケア(前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	68時間	担当者	林田 朋子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	介護福祉士は介護の中核を担う存在となり、複雑化・多様化・高度化していく介護ニーズに対応していく必要がある。 さらに業務として喀痰吸引と経管栄養が加わり、この授業では、医療職と連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得することを目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	目標						
	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○					喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことになった背景などを学び説明できる	
	○					医療的ケアを安全に実施するための基礎知識を学び医療職との連携の重要性を説明できる	
	○	○				喀痰吸引に関する基礎知識、実施手順とその留意点について学び実技に応用できる	
	○	○				経管栄養に関する基礎知識、実施手順とその留意点について学び実技に応用できる	
○	○	○	○			医療的ケアの実技ができる	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 中央法規出版 介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規出版 見て覚える!介護福祉士国試ナビ 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 医療的ケア実施の基礎 第1節 医療的ケアとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	喀痰吸引等制度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	第2節 安全な療養生活 救急蘇生①救急蘇生の必要性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	救急蘇生②救急蘇生の方法 緊急時の対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	実技試験 救急蘇生法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	第3節 清潔保持と感染予防①感染とは 介護職の感染予防			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	清潔保持と感染予防②消毒と滅菌 手袋・マスク等の装着法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	健康状態の把握①身体精神の健康状態を知る			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	健康状態の把握② 演習バイタル測定			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	第2章 喀痰吸引(基礎的知識)第1節 喀痰吸引概論①呼吸のしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ② 喀痰吸引とは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ③人工呼吸器と吸引			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ④子どもの吸引			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ⑤利用者家族の気持ち			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ⑥急変事故発生時の対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	16	第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説①物品確認			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
17	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説②演習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)グループ発表を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)実技試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				75%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	グループワーク・発表	○	○		◎		5%
	演習	○	○		◎	△	5%
実技試験	◎	◎				10%	
履修上の注意	出席が23回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	からだのしくみⅡ						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下 和美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	看護師として医療機関にて勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性のひとつに、利用者個々人の心身の状態に応じたケアを行うことが挙げられる。この授業では、個別ケアの中核をなす『介護過程(総論・各論)』において、身体構造・心身機能をアセスメントするために必要な医学的知識を学ぶ。また、『生活支援技術(基本・応用)』に関連するところやからだのしくみを理解して、全人的なケアを提供する際に必要な知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○				生活支援技術の根拠となる人体の構造・機能と、関連した疾患や障害の概要を説明することができる。		
	○				疾患・障害に対応するために、医療職との連携・協力の重要性を説明することができる。		
	○				介護サービスの提供における安全への留意点を説明することができる。		
	○				利用者の様子から、からだの状態変化に気づく観察の視点へと応用することができる。		
			○		利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面について配慮し、ケアの際に実践することができる。		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 最新介護福祉士養成講座11 - ころとからだのしくみ ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2019						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ ①入浴・清潔保持のしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ ②心身の機能低下が及ぼす影			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ ③変化の気づきと対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	排泄に関連したところとからだのしくみ①排泄のしくみ			・前単元の授業内容の復習をしておく(確認テスト) ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	排泄に関連したところとからだのしくみ②心身の機能低下が及ぼす影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	排泄に関連したところとからだのしくみ③変化の気づきと対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	睡眠に関連したところとからだのしくみ①睡眠のしくみ			・前単元の授業内容の復習をしておく(確認テスト) ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	睡眠に関連したところとからだのしくみ②心身の機能低下が及ぼす影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	睡眠に関連したところとからだのしくみ③変化の気づきと対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ ①人生の最終段階に関する「死」のとらえ方とところの理			・前単元の授業内容の復習をしておく(確認テスト) ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ 特別講師「日本人と死生観Ⅰ」			外部講師による授業		
	12	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ 特別講師「日本人と死生観Ⅱ」			外部講師による授業		
	13	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ ②終末期から危篤状態、死後のからだの変			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ ③終末期における医療職との連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	後期授業内容の復習とまとめ			・前単元の授業内容の復習をしておく(確認テスト) ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	全授業の終了後に定期試験(筆記)を実施する。 総合評価の際には以下の評価を加えて評価する。 (1)授業の中で確認テストを4回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)授業の中での討議・発表 上記の(1)(2)(3)については下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	確認テスト	◎	○				10%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	討議・発表	○	○		◎		5%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護実習Ⅱ①						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	160時間	担当者	平山恵子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	介護老人保健施設にて介護職員勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 2年生						
授業概要	個別ケアを行うために個々のリズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			コミュニケーション技術を活用した利用者との関りが実践できる	
			○	○		利用者を中止としたチームケアや多職種協働の方法について学ぶことができる	
		○	○			学校で学んだ生活支援技術が応用されている場面を見学し実践することができる	
		○		○		多角的に利用者の情報収集を行い、利用者理解を深めアセスメントすることができる	
			○			計画的に実習の課題に取り組むことができる。	
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	日数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	利用者の名前を覚え、1日の流れを知る				日々の実習記録の記載	
	2	職員や利用者との関りを通して、利用者の特徴を理解する				日々の実習記録の記載	
	3	利用者自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる				日々の実習記録の記載	
	4	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する				日々の実習記録の記載	
	5	介護過程の展開実践のための受け持ち利用者の決定				日々の実習記録の記載・フェイスシートの完成	
	6	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する				日々の実習記録の記載	
	7	生活支援技術実践のための見学を行う コミュニケーションから情報収集を行う。				日々の実習記録の記載	
	8	指導者の指示のもと根拠に基づく生活支援技術の実践				日々の実習記録の記載	
	9	他専門職から得られる情報を収集する				日々の実習記録の記載	
	10	フェイスシート、状況シートを記入し指導者からの確認を受ける				日々の実習記録の記載	
	11	中間カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う				日々の実習記録の記載・状況シートの完成・カンファレンスレポートの作成	
	12	介護過程の実践(アセスメント) 1日の流れを理解し自ら進んで業務に参加する				日々の実習記録の記載	
	13	アセスメントの実践 根拠を理解した生活支援技術の実践 アセスメントを指導者へ確認、指導を受ける				日々の実習記録の記載	
	14	根拠を理解した生活支援技術の実践 不足している情報の収集				日々の実習記録の記載	
15	レクリエーションなどの企画運営 不足している情報の収集 自ら考えて様々な業務を見学する				日々の実習記録の記載・個別援助計画の完成		
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実習態度		○	○	○		50
記録提出		○	○	○		50	
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	介護実習Ⅱ②						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	160時間	担当者	平山恵子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	介護老人保健施設にて介護職員勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 2年生						
授業概要	個別ケアを行うために個々のリズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			コミュニケーション技術を活用した利用者との関りが実践できる	
			○	○		利用者を中止としたチームケアや多職種協働の方法について学ぶことができる	
		○	○			学校で学んだ生活支援技術が応用されている場面を見学し実践することができる	
		○		○		多角的に利用者の情報収集を行い、利用者理解を深めアセスメントすることができる	
			○			計画的に実習の課題に取り組むことができる。	
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	再アセスメントの必要性について考察 介護福祉職以外の職種について見学等を行い、多職種連携を 再アセスメントの必要性について考察				日々の実習記録の記載・実施、評価の記録	
	17	昨日の学びを通して、チームケアについて考察する				日々の実習記録の記載	
	18	これまでの学びを通して、施設の社会的役割を理解する 介護福祉士の倫理観や専門性について考察する				日々の実習記録の記載	
	19	アセスメント実践のまとめ すべての生活支援技術について習熟度の確認				日々の実習記録の記載・プロセスレコードの完成	
	20	最終カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う				日々の実習記録の記載・最終カンファレンスレポートの提出	
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
29							
30							
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実習態度		○	○	○		50
記録提出		○	○	○		50	
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						